

第 14 回
「全国フレンドシップ活動」in 信州
報 告 書

Contents

1. はじめに	1
2. 「活動」の趣旨・目的	2
3. 「活動」事務局の組織	3
4. 「活動」の概要	4
5. タイムスケジュール	5
6. 物品の準備と運用	7
7. 3地域での活動の様子	9
8. 参加者の学び	13
9. 学生参加者名簿 (大学別・企画班別)	19
10. 会計報告	21
11. 「活動」規約	22
12. 資料：各種依頼状	23
13. お礼のことば	28

2014 年(平成 26 年)10 月
信州大学教育学部

学生 100 名が集い地域での体験活動を展開

信州大学教育学部長 平野 吉直

第 14 回「全国フレンドシップ活動」in 信州が、平成 26 年 3 月 5 日から 9 日にかけて、信州大学教育学部がホスト校となって開催されました。今回の「全国フレンドシップ活動」では、全国 11 大学（茨城大学、関東学院大学、岐阜聖徳学園大学、熊本大学、上越教育大学、中部大学、鳴門教育大学、広島大学、福井大学、横浜国立大学、信州大学）から 100 名の学生を迎え、長野市湯谷地区、青木村、麻績村のご協力を得て、盛大に開催することができました。

今回の「全国フレンドシップ活動」は、参加学生が、自主的・主体的に青木村、麻績村、長野市湯谷地区と連携することによって、地域の子どもたちを活性化するプロジェクトを開発したところに大きな意義があります。本学部の学生は、「信大 YOU 遊」をとおして、青木村・麻績村の子どもたちと 9 年間、長野市湯谷地区の子どもたちと 12 年間にわたって交流を続けてきました。これまでに蓄積してきた地域連携の手法を基盤として、今回の参加学生は、ユニークな体験活動を実施することができました。また、各地区での活動に先立って、青木村の北村政夫村長、麻績村の高野忠房村長、長野市湯谷小子どもランド保護者代表の近藤和巳会長に、「地域課題と人材育成」について講演いただいたことに加え、各地域の関係者の方々と懇談を深めることもできました。このことにより、参加学生は、子どもたちが生活している地域社会の実態について深く理解でき、充実した地域での体験活動を展開することができました。

数多くの学生を派遣いただいた各大学の関係者の皆様、学生の受入れ・指導をいただいた青木村、麻績村、長野市湯谷地区関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

ここに、第 14 回「全国フレンドシップ活動」in 信州が無事に終了し、その実践記録と成果を報告書として発刊できますことをたいへん嬉しく思います。また、信州大学の平成 25 年度地域志向教育研究支援事業「教育補助」に選定され、信州大学地域戦略センターから多大なご理解とご支援をいただいたことにより、充実した取組みを実施することができました。この場をお借りして感謝を申し上げる次第です。

最後になりますが、第 14 回「全国フレンドシップ活動」in 信州の企画・指導の中心となり、さらには「信大 YOU 遊」の指導教員として、これまで長きにわたり学生に主体的な体験学習の場を提供されてこられた土井進教授が、この取組みを最後に、平成 26 年 3 月末をもって定年退職されました。地域における教育課題等の解決に向けた信州大学教育学部の社会貢献活動を推進されてこられたご努力と継続力に、心から敬意を表します。

平成 26 年 8 月 18 日

第14回「全国フレンドシップ活動」in 信州 その活動の趣旨と目的

今回の〈第14回「全国フレンドシップ活動」in 信州〉では、参加した学生が活動をとおして「人間がもつ力について見つめるきっかけを作ること」を目的としました。そして、「一人の人間の力は微力であっても、その力が合わされば巨大になる」ことを自覚することは、いずれ社会の一員になる私たちにとって、これから活躍の場を広げる際に一つの指針になるものと考えました。

自分一人の力だけでは実現が困難なことも、仲間と協力すればそれを実現できる。そのためにも、人との繋がりを大切にするを5日間の活動を通して感じてもらいたい。そういうことで、5日間の活動のテーマを、「つながる」に設定しました。

では、「つながる」には、具体的にはどのような意味が含まれているのでしょうか。それについては、以下の二つが挙げられます。

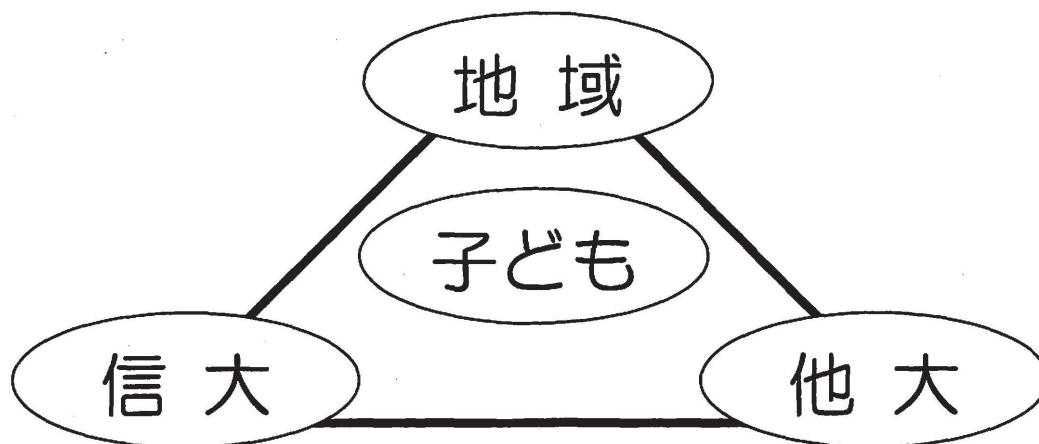
1. 「子どもをど真ん中に」

信州大学では、これまで「フレンドシップ活動」を行う際には、常に子どもを中心に据えて活動をしています。

今回、信州大学で「全国フレンドシップ活動（全フレ）」を開催するにあたって、まず子どもたちにとっては「全フレ」がどんな意味があるのか、ということを考えました。

その結果、子どもたちが全国の大学生たちと「つながる」ことで、普段とは違った関わりができますから、子どもたちもまた学生たちも、一生に一度とも思える時間の中で、お互いに貴重な経験や学びをし、ともに楽しく過ごすことができるのではないかと考えました。

2. 「地域との密なつながり」を全国の学生に味わってもらいたい



信州大学の特色 — 地域とのかかわり —

信州大学では、これまで教育委員会の方々や保護者の方々などはもちろんのこと、地域の方々や大学内の様々な方たちに支えていただきながら、「フレンドシップ活動」を行ってまいりました。

大学生たちが自ら進んで各地域に赴き、その地域のなるべく多くの方々を訪ねて、それらの方々とともに子どもたちのことを考えながら、自分たちの向上に努力することを目指してきました。学内にとどまらず、できるだけ広い視野に立つ努力をすることによって、より良い活動ができたり学びを深めたりすることが可能になると考えています。

私たちがこれまで心がけているこのような「地域との密なつながり」を、全国の学生たちにも味わっていただくとともに、「このような〈つながり〉を信州大学から全国に広げていきたい」という願いを、今回のこの「活動」のテーマに込めています。

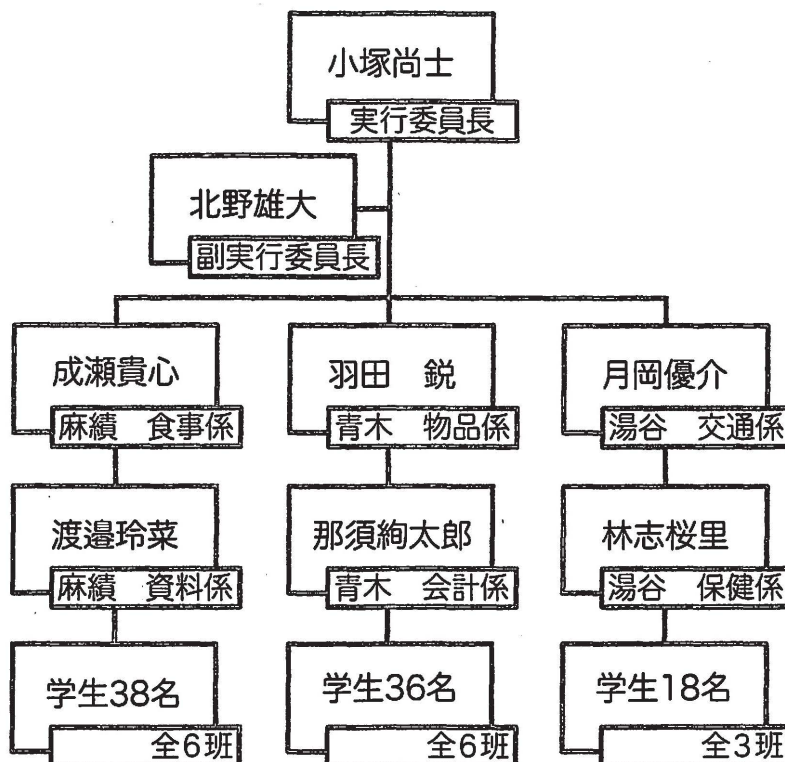
(記・那須絢太郎)

第14回「全国フレンドシップ活動」in 信州 その事務局の組織

1. 学生たちの活動と役割分担

今回の〈第14回「全国フレンドシップ活動」in 信州〉について、学生たちが行った活動の全体を組織図にまとめると、下図のようになります。

図を説明しますと、実行委員は3つの地域を担当する学生たちと8つの係(分担)に分かれました。また、各地域を担当する学生の数は、各地域の実態を考慮して決めました。(記・北野雄大)



2. 〈「全国フレンドシップ活動」in 信州〉を支えてくださった方々

麻績村、青木村、長野市湯谷地区の3つの地域の多くの方々と、長野市青少年錬成センターの皆様にご協力していただきました。

① 地域の方々

麻績村	青木村	長野市湯谷	宿泊
・麻績村教育委員会 ・昔遊びの会	青木村教育委員会	湯谷子どもランド	長野市青少年錬成センター

② 信州大学地域戦略センター

今回の〈第14回「全国フレンドシップ活動」in 信州〉の活動の趣旨にご理解をいただき、活動の様々な面で援助をしていただきました。

「活動」の概要

第14回「全国フレンドシップ活動」in 信州 その活動の概要

1. 「活動」の目的

今回の（第14回「全国フレンドシップ活動」in 信州）の活動の目的は、以下のとおりです。

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 各大学のフレンドシップ事業に参画している学生同士が交流することで、学生同士の親睦を図り、各大学のフレンドシップ事業の質的な充実を図ること。 |
| ② また、共に協力し企画をする仲間がいなければ成り立たないこと、色々なありがたみを再確認する場にし、このフレンドシップ事業を通して、これから更に意欲的に、また主体的にそれぞれの場で活動していける基盤を作ること。 |

2. 連携していただいた団体

- ・麻績村教育委員会・昔遊びの会
- ・青木村教育委員会
- ・湯谷子どもランド
- ・長野市青少年錬成センター
- ・信州大学地域戦略センター

3. 開催の日時

2014年(平成26年)3月5日(水)～9日(日) 4泊5日間

4. 参加した学生たちの所属する大学

信州大学	上越教育大学	福井大学	横浜国立大学	広島大学	熊本大学
茨城大学	鳴門教育大学	中部大学	岐阜聖徳学園大学	関東学院大学	計11大学

5. 参加人数

学 生： 100名（本部8名、信州大学15名、他大学77名）

子ども：約110名（麻績村 約40名、青木村 約40名、長野市湯谷 約30名）

6. 今年度「全フレ」のテーマは、

「つながる」です。

〈第14回「全国フレンドシップ活動」in 信州〉は、日本全国各地の大学から学生たちが長野県に集まり、その学生たちが長野県内の三つの地域に足を運んで「活動」を行うというのが特徴です。

そこでは、「学生たちと学生たちのつながり」、「学生たちと地域の人たちのつながり」、「学生たちと子どもたちのつながり」が生まれ、それらの「つながり」によって得られたものは、この活動後も各々の財産となります。

今回の活動は、「他人とつながり、協働することの大切さを学ぶ5日間にしたい」と考えて、今年度の「全フレ」のテーマを「つながる」と設定しました。

7. 歴代の「全フレ」のホスト校

歴代の「全国フレンドシップ活動」のホスト校は、以下のとおりです。

第1回 2001年 鳴門教育大学	第8回 2008年 上越教育大学
第2回 2002年 熊本大学	第9回 2009年 信州大学
第3回 2003年 横浜国立大学	第10回 2010年 横浜国立大学
第4回 2004年 上越教育大学・信州大学	第11回 2011年 広島大学
第5回 2005年 広島大学	第12回 2012年 岐阜聖徳学園大学
第6回 2006年 福井大学	第13回 2013年 上越教育大学
第7回 2007年 横浜国立大学	第14回 2014年 信州大学

15

16

17

福井大学
岐阜聖徳学園大学
横浜国立大学

タイムスケジュール

第14回「全国フレンドシップ活動」in 信州 タイムスケジュール

今回の5日間のタイムスケジュールは、以下のとおりです。

第1日目 2014年(平成26年)3月5日(水)

時間	内容	場所	備考
9:30	受付	図書館2F	
10:00	開会式		・企画班ごと座ってください。
11:00	大学紹介		・別紙参照
12:30	昼食		・企画班ごと食べてください。 ・集合写真を撮ります。
13:00	アイスブレイク	外	・p.12参照
15:00	各プラザ概要紹介	麻績：N101 湯谷：W506 青木：N201	・各地域で大切にしていることなど、企画するうえで重要なこと満載なのでよく聞いてください！ ・各企画班ごと話し合いをして企画案①を作ってください。
15:30	企画①	p.16参照	・物品申請を、企画①の終わりに確認するので、それまでにまとめておいてください。
17:00	移動	図書館前	・1号車：青木・湯谷 2号車：麻績
18:00	荷物整理	錬成センター	・各部屋に荷物を置いてください。 (部屋割：p.5参照)
18:30	夕食	食堂	・夕食の席順は毎回くじ引きです(∩_∩)入口のくじを引いてから中へ入ってください。
19:30	入浴・フリータイム <入浴班分け>	19:30~20:00 青木ABCD 20:00~20:30 麻績ABCD 20:30~21:00 青木EF・麻績EF 21:00~21:30 湯谷ABC	
22:00	ホスト校会議		・各代表2名出してください。
23:00	就寝		・企画案①を実行委員に提出してください。

第2日目 3月6日(木)

時間	内容	場所	備考
6:30	起床	錬成センター	
7:00	朝食	食堂	・朝食は企画班ごと指定された場所に座ってください。
8:00	朝の集い	体育館	・荷物を持って体育館へ！ *持ち物：筆記用具・ファイル ・福井大学担当です♪
8:30	移動	外	・バスは初日と同じです。
9:30	企画②	各教室	・物品申請は12:00です。 企画案②を作ってください。
12:00	昼食	学食	・企画班ごと座ってください。

13:00	企画③	各教室	・物品申請は、14:30、17:00の2回行います。
17:00	移動	図書館前	・バスは初日と同じです。
18:00	夕食	食堂	・恒例のくじ引きです♪
19:00	入浴・フリータイム		・しおりを配布します。
	<入浴班分け>	19:00~19:30 青木A B C D	19:30~20:00 麻績A B C D
		20:00~20:30 青木E F・麻績E F	20:30~21:00 湯谷A B C
21:00	夜の集い	体育館	・お楽しみに♡
21:30	フリータイム		・企画案②を実行委員に提出してください。
23:00	就寝		

第3日目 3月7日(金)

時間	内容	場所	備考
6:30	起床		
7:00	朝食	食堂	・企画班ごと座ってください。
8:00	朝の集い	体育館	・荷物を持って体育館へ！ *持ち物：筆記用具・ファイル・お泊まりセット（青木・麻績のみ）・上履き・しおり（地域別）・保険証
8:30	移動	外	・上越教育大学担当です♪
9:30	企画②	各教室	・バスは初日と一緒にです。
12:00	昼食	学食	・物品申請は12:00です。最終案を作ってください。締切は11時です。
13:00	移動	図書館前	・企画班ごと座ってください。
			・青木と麻績はそれぞれバスに乗ります。湯谷は学生車に乗ります。
			☆3日目は、各プラザの地域ごとに現地へ泊まります！ 詳細は、しおりを参照してください！☆
23:00	就寝	各部屋	

第4日目 3月8日(土)

時間	内容	場所	備考
			☆4日目は、地域ごとの活動日です(^O^) 詳細は、しおりを参照してください！☆
19:00	全体リフレクション	食堂	・指定された席に座ってください。
19:30	入浴・慰労会準備		・19:30~20:00 青木A B C D 20:00~20:30 麻績A B C D 20:30~21:00 青木E F・麻績E F
21:00	慰労会	食堂	・お酒をおともにたくさん語り合いましょう(^O^)
23:00	就寝	各部屋	

第5日目 3月9日(日)

時間	内容	場所	備考
7:00	起床		
7:30	朝食	食堂	・飲んだ次の日にはありがたい雑炊用意しています♪
8:30	掃除	外	・バスは初日と一緒にです。
9:00	荷物積み込み		・全ての荷物を積み込んでください。
9:30	移動		
10:10	図書館2階集合	図書館2F	・荷物をもって集合。図書館2Fに宿泊用は置いておきます。
10:30	シンポジウム①	各教室	・p.14参照
11:30	シンポジウム②		
12:30	昼食		・昼食は企画班ごと食べます。
13:30	閉会式	図書館2F	
15:00	終わり!		・おつぽん(^o^)/

物品の準備と運用

「全フレ」活動を支えた物品システムの詳細

「全国フレンドシップ」には全国の様々な大学から、様々な形態の活動を行ってきた経緯を持つ学生たちがたくさん集まります。ですから必然的に、どんな活動をするのか、運営する側の予想を超えて多様なアイデアが出てきます。そのアイデアを実現するためには、準備される物品の種類や数量がとても大きなポイントになっていると思います。換言すれば、準備されているであろう物品の範囲で、活動の内容が制限されてしまうことになります。

物品係としては、今回の信州大学での「活動」では、使える道具や材料などの物品に恵まれていたと思います。物品倉庫に行き、いつでも、だれでも、必要なものを取り出せるという環境は、貴重な企画内容の話し合いの時間等の節約につながりました。大学が学生を信頼してくださり、このような自由な環境を整えてくださっていることに感謝しながら、思い切って活動することができました。

また、SNSのグループトーク機能を利用して、複数人で物品を購入するための情報を共有しました。このことも、早急な物品の用意を可能にしたと思います。(記・羽田鋭、那須絢太郎)

1. 仕事の内容

活動前	<ul style="list-style-type: none"> ・「全フレ」パーカーの作成、発注、受取り ・名札、ファイルの材料購入、製作 ・信州大学教育学部の物品庫に保管されている物品の確認 ・信州大学教育学部物品庫に保管されている物品貸出表の作成 ・物品買い出しスケジュール表の作成
活動中	<ul style="list-style-type: none"> ・「全フレ」パーカー、名札、ファイルの配布 ・在庫数不足、在庫なし物品の購入 ・物品の管理、物品室の管理 ・購入物品の配布
活動後	<ul style="list-style-type: none"> ・物品庫の掃除

2. 物品買い出しスケジュール

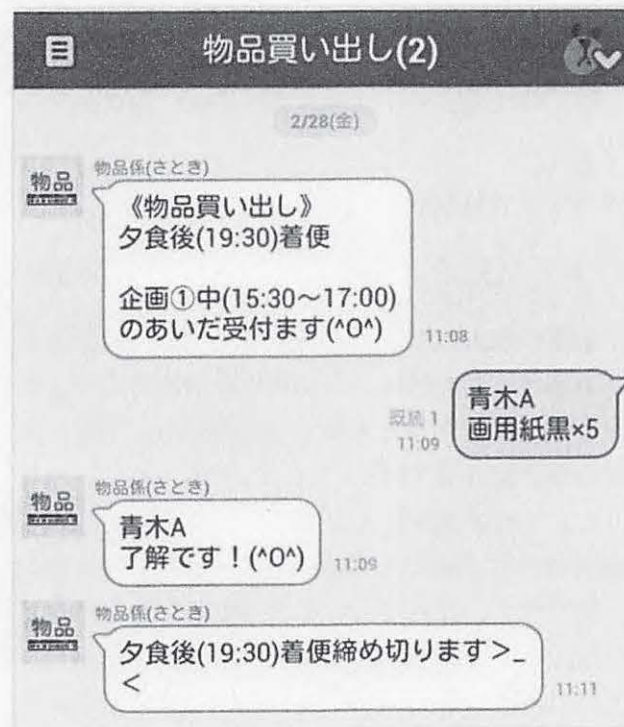
物品は、下記の時間に従ってLINEで注文を受け付け、不足物品の購入、配布を行いました。

3/5 (水) 企画①中受付 → 夕食後着便 15:30～17:00 19:30	フリータイム受付 → 3/6 (木) 企画②着便 19:30～21:00 9:30
3/6 (木) 企画②中受付 → 企画③着便 9:30～12:00 13:00	企画③中受付 → 企画③途中着便 13:00～14:00 15:00
3/6 (木) 企画③途中受付 → 夕食後着便 14:00～17:00 19:00	フリータイム受付 → 3/7 (金) 企画④着便 19:00～21:00 9:30
3/7 (金) 企画④中受付 9:30～12:00 → 就寝前着便 22:00	

3. LINEを活用した物品申請の詳細

今回の「フレンドシップ活動」では、活動中の物品申請にはLINEを活用しました。

下図のように物品係と各企画班の班長とが申請のやり取りを行い、要望のあった不足物品の申請をしたり円滑な配布を行えるようにしました。



3 地域での活動の様子

「青木村」「麻績村」「長野市湯谷」での活動の様子

1. 「青木村」での活動の様子

青木村での活動には、青木村在住の41人の小学生が参加し、青木村総合体育館と青木村文化会館で活動を行いました。青木村総合体育館には1～2年生の児童たち、青木村文化会館には3～6年生の児童たちというように振り分けて、各学年層に合った企画を提案しました。

なお、学生チームも二つに分けて、1～2年生の活動を担当するチームを「チーム青」、3～6年生の活動を担当するチームを「チーム木」としました。さらに、「チーム青」を「青木A」、「青木B」、「青木C」の3チームに、「チーム木」を「青木D」、「青木E」、「青木F」の3チームに分けて活動を行いました。

【企画の実践例①】

活動時間：11:40～12:50（70分）

企画班名：チーム青（チームA）

活動場所：青木村総合体育館

企画名：『レース中』

時間	展開・活動内容	学生の動き
11:40	導入 説明（雑巾レース）	○子どもをステージ前に並ばせる。 ○学生で見本を行う。
11:45	雑巾選び （長雑巾、軍手、モップ） 作戦タイム	○じゃんけんで勝ったチームから雑巾を選ぶように指示する。 ○各チームで4人組を3つ作る。 （どのチームも学生が4人組の中に1人以上入る）
11:55	ゲーム開始（雑巾レース）	○バトンパスの誘導 ○ゲームをしていないチームは応援・水分補給
12:15	雑巾レースの結果発表 説明（おとととレース） ボール選び（雑巾レースの 1位から順に行う） 作戦タイム	○子どもをステージの前に並ばせる。 ○学生で見本を行う。 ○くじをひく子を各班1人決める。 ○各チームで4人組を3つ作る。 （どのチームも学生が4人組の中に1人以上入る）
12:30	ゲーム開始（おとととレ ース）	○バトンパスの誘導 ○くじをひく子を各班一人決める。
12:45	まとめ（総合順位の発表）	○子どもをステージ前に並ばせる。

使用物品：＜共通＞

- ・得点板 ・画用紙×12 ・ビニールテープ×20 ・マーカー×20 ・コーン×2 ・養生テープ
- ・カラーマジック（1セット）

使用物品：＜雑巾レース＞

- ・長雑巾×2 ・モップ×2 ・軍手×2 ・模造紙 ・トーナメント表 ・バトンパス見取り図

使用物品：＜おとととレース＞

- ・ボール5種 ・風船×1 ・2畳ビニールシート×8 ・くじ ・くじ箱 ・タイトル紙

【企画の実践例②】

活動時間：11:30～12:40（70分）

企画班名：チーム木（チームE）

活動場所：青木村文化会館

企画名：『飛行中』

時間	展開・活動内容	学生の動き
11:30	導入 活動の説明（ゲーム、紙飛行機の作り方等）	○子どもと一緒に説明を聞く。
11:35	紙飛行機を製作する	○紙飛行機を自分で作ることが難しい子どもに対して支援を行う。 ○完成した紙飛行機に名前を書くように促す。 ○紙飛行機が完成した子どもを、講堂に移動するように促す。
12:05	ゲーム開始 2チーム対抗戦 <攻め> 子ども:ステージ上から紙飛行機を投げる 学生:かごを持って飛行機をキャッチする <守り> 子ども:うちわを使って紙飛行機を落とす	○自分のチームの番になったら、かごを持ってポイントゾーンに立ち飛行機をキャッチする。 ○自分のチームではない時は、子どもたちと一緒に作戦タイムに参加する。 ○紙飛行機が落ちた場所のポイントを読み取り、得点をまとめる。
12:35	まとめ（結果発表）	○子どもと一緒に並び、話を聞く。 ○紙飛行機の折り方を記した紙を、全員にプレゼントする。

使用物品：<紙飛行機>

- ・折り紙 ・広告 ・A4用紙 ・新聞紙 ・模造紙 ・セロハンテープ ・はさみ ・のり
- ・カラーペン

使用物品：<ゲーム>

- ・養生テープ ・ビニールテープ ・かご×4 ・うちわ×8 ・模造紙

（記・那須絢太郎）

2. 「麻績村」での活動の様子

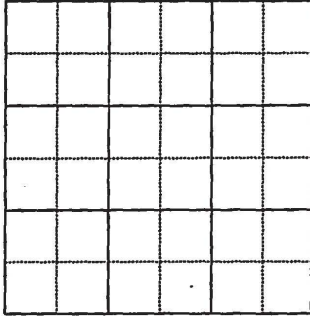
活動時間：9:10～10:20（70分）

企画班名：麻績C

活動場所：麻績村体育館

企画名：『めくってもっとBaby ☆フェスティバル』

時間	展開・活動内容	学生の動き
9:10	導入 男子が女子のスカートをめくっている。そこに先生が来て、「スカートばかりめくっていないでカードをめくりなさい」と言う。	○班ごと並んで子どもと劇を見る。
9:15	めくってポンッ！の説明	<めくってポンッ！の内容> ダンボールの表と裏に色画用紙が貼ってある。それぞれの班に色が決められているので、ダンボールをめくって自分の班の色を1分以内に一番多く表にした班の勝ち。 ・6人班には学生が1人入る。
9:20	めくってポンッ！スタート	

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 2セット行う。 ・ 「終わり！」と言ってから5秒以内に戻らないと失格。 (早く元の場所に戻れるように)
9:30 9:35	<p>めくってゲット!の説明 めくってゲット!スタート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目は作戦なし ・ 2回目の前に作戦を立てる時間を設ける。 <p>○お題割りふり 赤(1班)虹の色、乗り物 青(2班)曜日、動物 緑(3班)のりもの、虹の色 橙(4班)動物、乗り物</p>	<p><めくってゲット!の内容> 班に課されたお題を、ダンボールをめくって探してくる。見つけた人から抜けてきて、一番早くに全員が見つけた班の勝ち。</p> <p>○お題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 虹の色 赤 橙 黄 緑 青 藍 紫 ・ 曜日 月 火 水 木 金 土 日 ・ 乗り物 飛行機 ヘリコプター 自転車 電車 船 消防車 パトカー ・ 動物 犬 猫 馬 サイ キリン ライオン うさぎ
9:45 9:50	<p>めくってクイズ!説明 めくってクイズ!スタート</p>	<p><めくってクイズ!の内容> ヒントをもとに、お題が何かあてるゲーム。30秒間で見つけたヒントから、班で2分間相談して、画用紙に答えを書く。前半一斉に答えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒントは10個 ・ 3問行う。 ・ 60枚カードが並んでいて、そのうち10枚がヒント、50枚はダミー。 <p>○お題 ドラえもん 野球 クリスマス</p>
10:05 10:20	<p>めくってパズル!説明 めくってパズル!スタート</p> <p>活動終了</p>	<p><めくってパズル!の内容> 2つの班で協力して、1つのパズルを作る。班つきの学生も参加。</p> <p>パズル設計図</p> 

使用物品： ・ 画用紙×4 ・ ダンボール ・ パズル ・ マジック×4 ・ ヒントの紙

(記・北野雄大)

3. 「長野市湯谷」での活動の様子

活動時間：70分

企画班名：湯谷A

活動場所：檀田地区センター

企画名：『雪合戦しちゃうぞ大作戦』

時間	展開・活動内容	班つき学生の動き
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・導入 前の企画の流れから、姫が雪合戦に参加するという設定で導入を始める。 	
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・武器獲得ゲーム 各班の代表一人ずつに、カラーボールの入った段ボールに手を突っ込んでボールを取ってもらい、そのボールに書いてある数が小さい順に好きな壁を選んでもらう。 (ルール説明も含む) 	
20分	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦会議 班ごとにどのように旗を取るのか、獲得した壁をどこに置くのかなど、その他さまざまなことについての作戦会議をする。 	班つきの学生は、子どもたちを誘導し、段ボール壁の設置を手伝う。
30分	<ul style="list-style-type: none"> ・雪合戦 1ゲーム3分とする。6チームあり、1チームにつき2ゲームを行うこととする。 	
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・結果発表（まとめ） 班ごとに並んでもらい、得点の結果を発表する。発表が終わりしだい、次の企画の導入へ。 	

使用物品： ・カラーボール ・段ボール ・くじ箱 ・新聞紙 ・養生テープ

(記・小塚尚士)

「全フレ」参加者 18名の学び

1. たくさんの人の協力に感謝

実行委員長 小塚尚士 (野外3)

5日間の「全国フレンドシップ活動」を終えたとき、率直に言って、「やってよかったな」と思いました。実行委員長という立場で強く感じたことは、この「全国フレンドシップ活動」を開催できたことは、たくさんの人に恵まれたからだということです。実行委員に恵まれ、同じ志をもった全国の仲間にも恵まれ、先生方や地域の方々、保護者の方々に恵まれたからこそ無事開催できたのだと、深く感謝しています。今回の「全国フレンドシップ活動」のテーマである「つながり」をたくさん感じることでできた活動でした。学生には、5日間の中で、学生と学生との、学生と子どもたちとの、学生と地域との「つながり」を感じていただけたなら幸いです。

実行委員長をやると決まってから、大変なことがたくさんあるのだろうなと覚悟をしていましたが、実際はそんなことは1つもなく、仲間とともにすべてを楽しみながら準備もできましたし、当日も活動することができたと感じています。この全国フレンドシップ活動に関わってくれたすべての人に感謝の気持ちでいっぱいです。このつながりを未来につなげていけたらと思います。

皆様、ありがとうございました。

2. 人と人のつながりからとてつもないエネルギー

副実行委員長 北野雄大 (社会3)

「全フレ」を終えて、たくさんの人たちに支えられていたことを心から実感し、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。地域の方々やたくさんの関係者の方々の協力、参加学生たちの協力がなければ、信州で「全フレ」を成し遂げることはできませんでした。「つながり」という4文字の短い言葉の中にはたくさんの思いや願いが込められていて、とても深いものです。準備や当日の動きの中で、たくさんの「つながり」を感じることはできなかったのではないかと思います。人と人がつながることの尊さ、素晴らしさ、さらには、「つながり」からとてつもないエネルギーが生まれることが実感できました。

今回の「全フレ」の特色は、学生と子どもたちだけではなく、地域と一緒にやって行われる活動となったことです。それぞれの大学でコンセプトがあると思うのですが、信州大学のコンセプトを少しも感じていただけたら実行委員としては嬉しいです。

来年、第15回「全フレ」のホスト校となった福井大学のみなさん、大変だけど楽しみながら頑張ってください。応援しています！

3. 子どもと共に“楽しさ”を追求する信大の色

麻績村責任者 渡邊玲菜 (音楽4)

私は実行委員(麻績村担当)として参加しましたが、5日間を終えてみて、私も一参加者として一緒に活動したかったと思いました。それだけ、今回の活動はとても楽しい内容にすることができたと感じています。前回の上越教育大学での「全フレ」の反省を生かし、さらに信州大学ならではの色がある、“自由”を出すことができました。また、麻績村では、事務的な面で計画が曖昧であったにもかかわらず、学生が積極的に協力してくれたおかげで、助けられたことが多くありました。その中で学生同士の関係が友好的になっていくのを感じ、これで良かったのかもしれないと感じられるほどでした。地域の方々には親睦会では和やかな雰囲気作りをしてくださり、また当日の活動では物品や場所の手配を支えてくださいました。本当に地域の方々の温かいご協力に改めて感謝の気持ちでいっぱいです。そして、そのご協力のもとに行う信大の「フレンドシップ活動」という経験と、信大生が近い距離で麻績っ子に接する関わり方は、他大学の学生に多大な影響を与えている様子でした。賛否はさまざまであったと思いますが、学生自身の成長を目的としない、子どもと共に“楽しさ”を追求する「信大 YOU 遊」精神を存分に感じられる「全フレ」となったと思います。

4. 将来の目標とも“つながる”活動

青木村責任者 那須絢太郎（数学3）

私は、「全国フレンドシップ活動」in 信州に参加して、多くの刺激を受けました。他大学の学生と一緒に活動することは初めてだったので、最初はとても不安でした。活動初日、様々な個性をもつ総勢100人の学生が集結した時は、そのパワーに圧倒されました。

「やってやるぞ」という意欲に満ち溢れているその空間はとても熱く、私もワクワクする気持ちを抑えきれませんでした。そして、いざ活動が始まると、教育あるいは子どもたちとの触れ合い方に対する様々な価値観を有する学生同士が意見をぶつけ合い、子どもたちのことを真剣に考える仲間の姿に尊敬の気持ちが膨れ上がりました。

私も何とか力になりたい、しかし、自分には力がない。今思い返すと、5日間ずっともがいていたように思います。しかし、もがき続けた経験が、これからの自分に繋がると信じています。今回の「全フレ」のテーマは、「つながる」でしたが、子どもたち、他大の学生、地域と“つながる”ことはもちろん、私たちの将来の目標とも“つながる”活動でした。今回の活動でお世話になった全ての方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも、「全フレ」で築いた繋がりを大切にしていきたいと思います。

5. 一から企画をする難しさと達成感

金沢優花（現教2）

今回、「全国フレンドシップ活動」に参加し、企画することの難しさ、他大生や子どもたちとのふれあいの素晴らしさを感じることができました。

私は、先輩から地元信州での開催だということを知り、せっかくならばと思い、参加しようと思ったのがきっかけです。もともと、私には人見知りをする部分があり、これを機会に他大生と企画を組む中で、克服していけたらと思いながら5日間を過ごしました。自分自身、「YOU遊」の活動では一から企画をするということが初めてで、企画班で話し合いを重ね、それぞれのアイデアを一つの方向に持っていくことの難しさをとても感じるとともに、まとまっていく過程に達成感と喜びを感じることができました。当日、自分たちが想像していた以上に企画がよいものになり、子どもたちの楽しむ力にとっても助けられたなという印象を持ちました。

今回、改めて子どもたちが好きだと感じたし、人とのつながりの大切さに気づくことができました。本当に参加することができてよかったと思います。今後の活動に今回の経験を活かしていきたいです。

6. 他大学の良さを感じ、受け入れる

上野なつみ（生活3）

私にとっては今回が初めての「全国フレンドシップ活動」でした。今まで信州という狭い枠の中でしか教育を見てこなかった私にとっては、期待でいっぱいの「活動」でした。

いざ本番になり企画を進めていく中で、何を大切にしていこうか大学によって違いがあり、なかなか先に進まない時もありました。自分の大学ではこうやっているという固定観念にとらわれず、いかに「こうあるべきだ」を崩すことができるか。みんなそれぞれ譲れない思いはあるのだけれど、他の大学の良さを感じ、受け入れて、自分たちの「こうあるべきだ」をいい意味で崩し合うことができたからこそ、子どもたちに最高の企画を提供することができたのではないかと思います。

他大学の良さを知り、また自分の大学の良さを改めて実感することができた5日間でした。また、友だちを思いやる優しい心を持ち、周りを笑顔にするユーモアセンスがあり、そして熱い思いを持った仲間と出会えたことが本当に幸せです。この繋がりをこれからも大切にしていきたいです。

7. 全国にたくさんの仲間

中野直輝（社会3）

「全フレ」は今回が初めての参加でした。いつもと同じ場所で、いつもとはまったく違うメンバーで活動するという体験は、新鮮な体験でした。信大での活動では当たり前になってしまっていること

の中には、他の大学の学生から見たら不思議なことというものが多くありました。子どもがやりたいと思うことを優先するあまり、協調性が欠けてしまう場面が多くあり、「協調性を持って行えばもっと楽しい活動になるはず」との意見をもらい、今後、活動を行う中で考えていかなければならない視点だと考えさせられました。また、いつもの「YOU 遊」の活動では行ってこなかった世界観の設定と導入劇を行うことができ、子どもたちからの反応もよく、新たな子どもの一面が見られました。子どもたちは、初対面の他大学の学生ともすぐになじみ、子どもの柔軟性のすごさをまざまざと見せられた気もしました。何よりも、全国にたくさんの仲間ができたことが今回「全フレ」に参加した成果だと感じています。

8. とても楽しかった

島山智晴（社会3）

去年「全フレ」に参加した人たちから「全フレ」がすごく楽しかったという感想や、信大はすごく自由に「YOU 遊」の活動をさせてもらっているというのを聞いて、他大学での活動の様子や「全フレ」の活動に興味がありました。初対面の人と時間がない中で企画を立てて物品づくりをするのは思っていたよりもあわただしくて、あつという間に時間が過ぎてしまいました。自分たちの今までの話し合いでは生まれない考えなどがたくさん出てきて勉強になったし、何よりとても楽しかったです。「YOU 遊」の活動では当たり前のようにできることが他大学の活動ではできないこともあるという話から、私は他大学の学生さんたちには信大だからこそできる経験を味わってもらいたいと思っていました。「YOU 遊」の活動のよさや、地域の方々や先生方に支えられて活動できているということのありがたさ、信大の活動の改善点など、様々なことが学べました。

9. 他大の良さと信大の良さ

関口美桜（現教2）

「全フレ」in 信州では、自分自身、学ぶことが多くありました。他大学の人たちと話し合い企画することを通して、自分のもっていなかった考えや、新たな視点をもつことができました。人数が少ない分、一人ひとりの意見や考えを聞くことができたのだと思います。他大の良さを感じると共に、信州大学の良さを改めて考えることができました。

また、一から企画し、物品から何まで全て自分の班で準備をするということは、私にとって初めてのことでした。企画するにあたって、企画内容や物品準備まで考えることが多くあり、企画することの難しさを実感しました。私の班の場合、用意する物品がとても多く、話し合いによる内容の詰めが甘くなってしまったことが反省としてあがり、話し合いをすることで、考えを共有することの重要性を感じました。大変なことも多かったけど、自分たちの考えた企画で子どもたちが楽しんでいる姿を見ることができたことは本当に嬉しいことであり、頑張ってよかったと思いました。「全フレ」に参加できてよかったです。

10. 一つひとつの大学に各々の特色がある

上原瑛美（現教2）

たった5日間、されど5日間、生活を共にするだけでなく、子どもを中心に置いた企画について真剣に考えたり、シンポジウムで語り合ったり、朝の集いや夜の集い、食事の際は学生間の交流を思いっきり楽しんだり、メリハリを持って取り組むことのできる人たちと仲間になれたことが、私にとって一番の収穫であったと思う。また、他大学の活動の内容や子どもとの接し方、話し合いの仕方や考え方を聞く中で、子どもが好きという思いを全員が持っているということも分かったのだが、一つひとつの大学に各々の特色があることもよく理解した。他大学の活動の中に自分の興味を引くものも多々あったが、『やりたい人がやりたいことをやりたいように』できる「信大 YOU 遊未来」の活動の良さを改めて実感することにも繋がった。とにかく5日間が本当に楽しく、充実していて、私にと

ってとても影響力のある5日間であったと思う。来年も必ず行きたい！と思えるような「全国フレンドシップ活動」であった。

11. 大学ごとに企画の作り方が違う

土屋孝将（理科3）

私がこの「全フレ」に参加して素直に思うことは、色んな人に出会えてよかったということです。私はこの「全フレ」に参加して、様々な刺激を受けることができました。私は、ギリギリまで「全フレ」に参加するかどうか迷っていました。それは、初対面の人たちの中に自分が入って、短時間で企画を作り上げることができるかどうか不安に思っていたからです。しかし、最終的に私は色んな人たちと出会いたいと思い参加することにしました。そして、「全フレ」に参加して色んなことを感じ、色んなことを学びました。私は、大学一つひとつで企画の作り方が違うところには驚きました。「目標を立てるか立てないか」、「考えた企画が子どもたちにどのような効果があるのか」について、時間がないにもかかわらず長い時間をかけて話し合いをしている班があって、私は大きな衝撃を受けました。結果として、改めて自分がいるこの信州大学の特徴を知ることができました。また、自分の班の学生とは、今度集まって遊ぶ約束をしているくらい仲良くなることができました。この出会いをこれからも大切にしたいと思います。

12. 与えられた環境にどう自分をコミットさせるか

木田達也（社会3）

参加してみて一番思ったことは、参加するに当たっての参加者の「全フレ」に対する理解の違いでした。「全フレ」とは何で、何をしに参加するのか、自分なりの答えを持って参加した人がどれほどいるのか。また、その自分なりの答えを持って参加することが果たしていいことなのか、僕は疑問に思いました。毎年異なる大学でやる意味が何なのか、一回しか参加したことがない僕にはわかりません。毎回開催されるホスト校会議では、自分たちの大学の独自性をプレゼンテーションするらしい。それを踏まえると僕には、「全フレ」は自分たちが自分たちの大学で学んだことを一回リセットして、何も持たずにホスト校に集まり、ホスト校で勉強させてもらう、という姿勢が必要なのではないかと思われま。他大学に来てまで自分のやり方を貫くことに、大きな意味なんてないと思いました。与えられた環境にどう自分をコミットさせるかが大事なのでは、とずっと疑問でした。

13. 「学生と子ども」という斜めの関係

宮田巴都樹（特支4）

「全フレ」in 信州は、私にとって「学生と子ども」という斜めの関係で子どもとかかわれる最後の機会であり、他大学の同じ志を持つ仲間と出会える最後の機会でもありました。他大学の活動はおろか、「全国フレンドシップ活動」のことさえ良く知らない4年生の私が参加させてもらっていいのかな、という思いで始まった5日間でした。不安も期待もたくさんありましたが、始まってしまえばとても楽しくあっという間に時間が過ぎていきました。学生同士の企画で仲良くなり、班やプラザを超えてたくさんの参加者をつながりをもてたこと、自分たちの受け持つ企画について考え話し合うだけでなく、同じプラザに行く全員で全体の流れについてかなりの緊張感をもって話し合ったこと、子どもと出会い、一日を一緒に過ごしたこと、保護者の方とたくさんのお話ができしたこと。すべてが自分にとって新しく、自分にとっての最後の活動にしたいと強く思いました。全国の仲間、同じ大学の仲間から学んだことを生かし、「全フレ」でできた多くのつながりを大切に、今後がんばっていきたいと思いました。

14. 自分の意思をしっかりと持ち、相手の意見もしっかり聞く

村松知美（芸術2）

私が「全国フレンドシップ活動」のことを知り、参加するきっかけになったのは、昨年、信州大学で開催された第12回「YOU 遊フェスティバル」の時に他大生の方とお話をした時でした。そこで、

全国の学生が集まり活動をするという話を聞き、他の地域に住む学生と交流しながら、より「フレンドシップ活動」の良さを知りたいと思い、この「全フレ」に参加させていただきました。

全国の大学の学生は、どんな感じなのか、どきどきしながら参加しましたが、他大生のみなさんはとてもおもしろく、楽しく、すぐに仲良くなっていくことができました。しかし、「フレンドシップ活動」に対する考え方がそれぞれの大学で異なり、最初はぶつかり合ったこともありました。気まずい雰囲気になってどうしようかと考えたこともありましたが、その分話し合っているいろんな案を出し合っ
て、仲も深まって、最終的には子どもたちの笑顔をたくさん見ることができる、素敵な活動ができたと思っています。この「全国フレンドシップ活動」では、活動の良さや子どものかかわりだけでなく、自分の意思をしっかりと持つこと、でも相手の意見もしっかり聞き入れることも学びました。すてきな仲間と貴重な体験ができ、なによりとても楽しい5日間を過ごすことができました。

15. 他大生に接した「おみっこ」の化学変化 新井雅菜（生活3）

「たのしいー！！」「全フレ」の期間中は、毎日そんなことを思っていました。もちろん、企画がなかなか決まらなかったり、ストーリーを作るか作らないかで議論したり、試作品がうまくいかずに悩んだこともありました。しかし、そういったもやもやとした時間も、みんなでアイデアを出し合っ
て話しているうちに、楽しさに変わっていきました。

そして、活動日当日。1年間副プラザ長として関わっていた麻績の子どもたちが、初めて会う他大生とどのような化学変化を起こすのか楽しみである反面、不安もありました。しかし、活動が始まるといつもの活動、いや、いつもの活動以上に楽しんでいる「おみっこ」の姿がありました。「全フレ」に参加してみて、他大学での活動のうらやましさを感じた反面、「信大YOU遊」の良さもたくさん感じることができました。「全フレ」で感じたそれぞれの良さを、参加していない学生にも伝え、より良い活動ができればいいなと思いました。ありがとうございました。

16. 「人」との「つながり」を大切にする「YOU遊」 北見 聖（言語4）

信大での「全フレ」は、学生と子どもたちが「楽しかった」と思えたら、成功だと思う。それぞれに色々な思いはあるけれど、「楽しい」が全てだと思った。それが信大の良さであり、むずかしさでもあるとも思った。

それから、信大は他大ほど自分の大学の「フレンドシップ活動」のことは考えていないと思った。それが悪いと言いたいのではなくて、信大生は「人」のことを考えている。「YOU遊」をよくしていかうとか、活動を大きくしようとかではなく、「人」との「つながり」を大切にしているし、それを求めているのだと思う。少なくとも、私が「YOU遊」に行く理由はそれだった。「人」と、括弧づけにしたのは、子ども、学生、地域の方・・・という「人間」を指して言いたかったからである。色々なことに気付くことのできた「全フレ」だったので、参加してよかったと、心から思う。

おわりに、私にとって「全フレ」は、後輩を応援したくなるものだった。それぞれに頑張っている姿をみて、そう思った。がんばれ、楽しむことを忘れずに。

17. 学生と交流することの楽しさ 小宮山翔平（社会2）

私は今回、他大学の学生と触れ合うという経験がないので、この機会に様々な刺激を受けたいと思い、参加させていただきました。実際に5日間を終えてみると、本当にいろんな刺激を受けることができました。それは周りの学生の子どもたちに対しての思いであったり、企画への熱心さであったりと、勉強になることばかりでした。さらに、学生と交流することの楽しさや子どものことを第一に考えてみんなで議論することの大変さを感じることができたことは、これからまた活動をしていくにあたって必ず自分の糧になると思いました。子どもたちと触れ合うことができることも魅力的でありま

すが、さらに学生間でもたくさんの交流ができるという点がこの「全フレ」の魅力ではないかなと、肌で感じました。また、最終日に他大学の学生と話す機会があったことが、収穫としては大きかったように思います。そこで、信大は様々な点で恵まれていると感じたので、それを生かしてこれからもがんばっていきましょうと思いました。

18. 全国にたくさんの仲間がいることを忘れない

北村隼一(数学3)

「全フレ」に参加し、全国各地に熱を持ってフレンドシップの活動をしている学生がいるということを知ることができた。今までは信州大学の活動のことしか知らずにいたので、すごくいい刺激になった。一人ひとりが熱い想いをもって、それぞれの経験をもとに一つの活動を作っていくことはとても楽しく、大きな学びになった。自分だけでは気付かなかったことに話し合う中で気付くことができたり、新しい視点で活動について考えたりすることができた。また、信州の子どもたちのために参加者全員が一生懸命になってくれたことがすごくうれしいことだった。

今回の経験をこれからの活動に活かし、子どもたちのために頑張っていきたい。そして、今回できたこのつながりを大切に、全国にたくさんの仲間がいることを忘れずに信州の子どもたちに向き合っていきたい。

「全フレ」に参加することができて本当に良かったと思う。

学生参加者名簿

1. 所属大学別の参加者名簿

氏名・ニックネーム	性別	大学・学年
中村 勇太・なかむら	男	茨城・1
阿部 巧・たくみ	男	茨城・1
川崎 麻貴・まーきやん	女	茨城・1
関根 望・のーん	女	茨城・1
大竹 夏未・なつ	女	茨城・1
松村 拓哉・たくあん	男	関東学院・2
村井知佳子・ちかこ	女	関東学院・1
松吉 裕実・ゆみ	女	関東学院・1
宮崎ありさ・ありそん	女	関東学院・2
寺島 快・シーズー	男	岐阜聖徳・1
森尾 雄大・ゆーだい	男	岐阜聖徳・1
草薙 康平・つよし	男	岐阜聖徳・2
菅邊 大典・だいちゃん	男	岐阜聖徳・2
中野 佳子・よっこ	女	岐阜聖徳・1
黒田 梨染・さりー	女	岐阜聖徳・1
本山 清佳・きょん	女	岐阜聖徳・1
山根 美里・まみー	女	岐阜聖徳・2
渡辺 恭平・オシム	男	熊本・1
坂崎 優平・ザック	男	熊本・2
加隈 里始・ぷー	男	熊本・3
小柳 知穂・ちい	女	熊本・2
大塚龍之介・ドラちゃん	男	上越教育・1
山岸 大輔・ぜんちゃん	男	上越教育・1
飛田 賢司・けん	男	上越教育・3
白井沙也子・あっこちゃん	女	上越教育・1
細井 愛未・まむ	女	上越教育・3
田中 千帆・ちゃんてい	女	上越教育・3
金子 恵理・かかお	女	上越教育・3
中村 隆二・りゅーじ	男	中部・2
森下 義貴・にゃんこ	男	中部・2
村松 穂海・ほーみ	男	中部・2
及川 悠太・おっくん	男	中部・3
加崎 瑞奈・みずな	女	中部・2
原田 果奈・ぼっかーな	女	中部・2
梅村 百里・うめむ	女	中部・2
森 翔汰・タモリ	男	鳴門教育・1
九鬼 裕里・くっきー	男	鳴門教育・1
阿佐 賢彦・あーさー	男	鳴門教育・1
馬居 志帆・うらら	女	鳴門教育・1
野口まるみ・まるみ	女	鳴門教育・2
矢野 瑞季・みーちゃん	女	鳴門教育・2
山崎 達矢・マッカーサー	男	広島・1
唐津 聡史・マイク	男	広島・1
一ノ瀬翔太・のんちゃん	男	広島・2

氏名・ニックネーム	性別	大学・学年
西村 崇・スナフキン	男	広島・3
森 悠希・プリッツ	女	広島・1
鶴元 果穂・つるもん	女	広島・1
仲地 佳鈴・しゅり	女	広島・1
遠地 千智・ましや	女	広島・2
中村 汐里・カルピス	女	広島・2
矢幡 千明・やーまん	女	広島・2
寺嶋めぐみ・めぐ	女	広島・3
手柴 美波・漢ちゃん	女	広島・3
佐藤 聡太・ジャッキー	男	福井・1
内山田朋弥・教頭	男	福井・1
山岸 弘典・ガセリ	男	福井・1
井川 悠司・モナす	男	福井・1
寺島 亮太・チャーリー	男	福井・2
三井 翔太・みっちゃん	男	福井・2
多田 禎秀・ホークス	男	福井・2
松枝 史陽・かつお	男	福井・2
本谷 匠・もとやん	男	福井・3
田上 芽衣・テナー	女	福井・1
川面 舞・スピッツ	女	福井・1
金川 実可・かなみ	女	福井・3
横山 爽太・すがぼん	男	横浜国立・1
木内 陽翔・はるか	男	横浜国立・1
筒井 諒・つつぴー	男	横浜国立・1
相原 俊介・しゅん	男	横浜国立・2
岡村 玲・れいちえる	男	横浜国立・2
堀江 俊文・社長	男	横浜国立・3
飯坂 祥子・しょうこ	女	横浜国立・1
平戸 萌子・もえぴー	女	横浜国立・1
山崎由里恵・ゆっちゃん	女	横浜国立・1
斎藤友美子・ゆみ	女	横浜国立・2
柏木 麻里・まり	女	横浜国立・3
山田紗恵子・さえちゃん	女	横浜国立・3
小宮山翔平・しょうへい	男	信州・2
木田 達也・たつや	男	信州・3
中野 直輝・ねーさん	男	信州・3
北村 隼一・しゅんち	男	信州・3
土屋 孝将・たかぼん	男	信州・3
関口 美桜・みお	女	信州・2
金沢 優花・ゆか	女	信州・2
村松 知美・ともちん	女	信州・2
上原 瑛美・えみ	女	信州・2
新井 雅菜・まさな	女	信州・3
上野なつみ・なっちゃん	女	信州・3

氏名・ニックネーム	性別	大学・学年
畠山 智晴・ちはる	女	信州・3
宮田巴都樹・ずっきー	女	信州・4
北見 聖・あきら	女	信州・4
山崎花奈子・ざきたん	女	信州・4
小塚 尚士・ひさし	男	信州(本部)・3
北野 雄大・ゆうだい	男	信州(本部)・3

氏名・ニックネーム	性別	大学・学年
那須絢太郎・なすけん	男	信州(本部)・3
羽田 鋭・さとき	男	信州(本部)・4
月岡 優介・つっきー	男	信州(本部)・4
成瀬 貴心・きしん	男	信州(本部)・4
林 志桜里・しおり	女	信州(本部)・4
渡邊 玲菜・れいな	女	信州(本部)・4

2. 地域別・企画班別の名簿

青 木 (◎は連絡係)

〈青木 A〉	〈青木 B〉	〈青木 C〉	〈青木 D〉	〈青木 E〉	〈青木 F〉
◎北村 隼一	◎上原 瑛美	◎上野なつみ	◎土屋 孝将	◎村松 知美	◎山崎花奈子
九鬼 裕里	草薙 康平	森下 義貴	村松 穂海	岡村 玲	西村 崇
山岸 弘典	筒井 諒	寺島 亮太	多田 禎秀	森 翔汰	寺島 快
手柴 美波	加隈 里始	横山 爽太	白井沙也子	三井 翔太	野口まるみ
柏木 麻里	遠地 千智	仲地 佳鈴	宮崎ありさ	田中 千帆	平戸 萌子
梅村 百里	金川 実可	矢野 瑞季	川崎 麻貴	中野 佳子	田上 芽衣

麻 績 (◎は連絡係)

〈麻績 A〉	〈麻績 B〉	〈麻績 C〉	〈麻績 D〉	〈麻績 E〉	〈麻績 F〉
◎木田 達也	◎関口 美桜	◎畠山 智晴	◎新井 雅菜	◎金沢 優花	◎北見 聖
大塚龍之介	飛田 賢司	相原 俊介	阿部 巧	本谷 匠	木内 陽翔
佐藤 聡太	井川 悠司	森尾 雄大	中村 隆二	山岸 大輔	唐津 聡史
山根 美里	坂崎 優平	一ノ瀬翔太	阿佐 賢彦	中村 勇太	松枝 史陽
加崎 瑞奈	関根 望	村井知佳子	飯坂 祥子	黒田 梨染	小柳 知穂
鶴元 果穂	寺嶋めぐみ	金子 恵理	中村 汐里	山田紗恵子	松吉 裕美
	山崎由里恵			矢幡 千明	

湯 谷 (◎は連絡係)

〈湯谷 A〉	〈湯谷 B〉	〈湯谷 C〉
◎小宮山翔平 内山田朋弥	◎中野 直輝 渡辺 恭平	◎宮田巴都樹 菅邊 大典
及川 悠太 斎藤友美子	松村 拓哉 原田 果奈	山崎 達矢 堀江 俊文
馬居 志帆 森 悠希	本山 清佳 細井 愛未	川面 舞 大竹 夏未

会計報告

第14回「全国フレンドシップ活動」in 信州 会計報告

1. 会計係の役割

- ・活動に必要な予算の編成・運用など
- ・活動終了後の決算報告・返金など

2. 決算報告

【収入】 2,311,000円 【支出】 2,245,138円 (物品消耗品の補充費用は除く)

<収入の内訳>

参加費等	学生参加費：20,000円×101人 見学者参加費：500円×22人 国立大学協会：30,000円 信州大学COC経費からの補助金：250,000円 総額 2,311,000円
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

<支出の内訳>

宿泊費等	<錬成センター> 引率者：500円×1人×2泊=1,000円 学生(湯谷)：1,000円×22人×4泊=88,000円 学生(麻績・青木)：1,000円×78人×3泊=234,000円 クリーニング代(シーツ、布団、枕等)：46,000円 暖房費：76,320円 <麻績> 布団(レンタル)：880円×41人+5,000円(配送料)+税=43,134円 入浴料：250円×41人=10,250円 <青木村文化会館> クリーニング代(枕カバー)：5,700円	504,404円
食事費等	・期間中の食事 <錬成センター> 朝食(5日間)：480円×224人=107,520円 夕食(5日間)：690円×225人=155,250円 食材費：22,582円 <湯谷(4日目昼食)> 弁当代：394円(昼食不足分) <麻績(3日目夕食、4日目朝食・昼食)> 食材費：19,252円、弁当代：42,025円 <青木(3日目夕食、4日目朝食・昼食)> 食材費：23,341円、弁当代：17,480円 <信州大学(2日目・3日目・5日目昼食)> 弁当代：119,390円 ・慰労会費(食材、飲み物、皿類)：108,219円 ・お菓子：16,193円 ・景品：10,479円	642,125円
交通費等	貸切バス：84,000円×5日=420,000円 送迎車(ガソリン代・高速料金)：76,320円 レンタカー使用料：12,800円	509,120円
物品費用	企画班物品：37,632円	37,632円
参加オプション費用	事前資料(ファイル・名札等)：28,039円 アイスブレイク：500円×15グループ=7,500円 パーカー：2,300円×101人=232,300円	267,839円
保険費用	子ども：28円×126人=3,528円 学生：290円×101人=29,290円	32,818円
報告資料費	報告書作成費+郵送代：120,000円	120,000円
遠方調整費	広島大学：12,000円 熊本大学：119,200円	131,200円
物品消耗品の補充費用	今回の活動で、物品庫に保管していた画用紙や絵の具等の消耗品を多く使用しました。その補充のための費用です。	65,862円

3. 反省と気づき

＜参加費徴収方法及び振込期日について＞

今年度の〈第14回「全国フレンドシップ活動」in信州〉では、昨年度と同様に、指定の銀行口座に参加費を振り込む形式を採用しました。200万円以上の莫大な金額を管理する上で、銀行口座で管理する方法は安全面で非常に有効でした。また、口座振込ですと事前に参加費を徴収できることから、ホスト校が活動までに準備しなければならない資料等の作成費をすぐに係に割り当てることができる利点もありました。その反面、振り込みには手数料が発生するため、その点の配慮が必要です。今回は各大学で手数料を負担していただきましたが、ゆうちょ銀行を活用すれば手数料が無料になりますので、もう少し配慮を行うべきだったと反省しています。

参加費の徴収締切日に関しては、今回は5日前に設定しましたが、もっと前に設定すべきだったと思います。その理由としては、活動が始まる前に、食費や物品費等に要する経費を整理し準備しておく必要があるからです。各経費をそれぞれの封筒などに入れてまとめておき、活動が始まればいつでも担当者に手渡せる状態にしておけば、スムーズな活動運営が可能になります。しかし、活動日が近づくにつれて様々な準備に時間を割くことになり、経費を整理する時間的余裕はなくなってしまいます。活動が始まれば言わずもがなです。よって、参加費の徴収締切日については余裕をもって、少なくとも活動日の10日前に設定するべきだったと考えます。

＜全体を振り返って＞

まず、参加費2万円という予算の中で活動を行えたことは、錬成センター様をはじめ湯谷、麻績村、青木村の関係者の皆様から多大なるご協力をいただいたお陰であります。心から感謝申し上げます。

活動を振り返って、会計係は支出に対して臨機応変に対応する能力が必要だと考えます。事前に見直しをもって予算を作成することは大切ですが、そのとおりに支出が進行するわけではありません。予算よりも少なく済むこともあれば、多くなってしまうこともあります。また、予想外のことが発生し、そのために経費を余分に費やすこともあり得ます。会計係は、現段階でいくら支出してどの程度の残高があるのかを、活動中は常に把握していなければなりません。

以上の点について、私は今回の活動で十分に役割を果たせなかったと反省しています。今回の活動では、各係の担当学生や地域の関係者様のご協力によりまして、宿泊費や交通費等では予算額よりも少なく済んだ場面が多くありました。ですから、活動中に物品費や食費の金額を増やす等々、より充実した活動になるための予算の再編成を行うことも可能でした。しかし、私は実際の活動中、進行する現段階の支出額を十分に把握しておらず、そのような対応ができませんでした。会計係は、会計表を工夫するなどして、流動的な状況への対応策を事前に考えておくことが大切であると思います。

最後に、会計係という責任のある役割を担わせていただいたことに対し、土井進先生をはじめ、関係者の皆様や参加者の皆様に、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

(記・那須絢太郎)

「活動」規約

「全国フレンドシップ活動」規約

1. 全国フレンドシップ参加費用の残額は、その年の全国フレンドシップ参加者に返金するあるいは遠方往来費にあてるなどして、次年度以降に繰り越さないこととする (第9回信州大学提案)
2. ホスト校は全国フレンドシップ期間中に次年度のホスト校会議を主催することとする
3. 次年度のホスト校に立候補する大学は、ホスト校会議において、全国フレンドシップの方針を示すこととする
4. ホスト校会議において次年度のホスト校を決定することとする。その他、ホスト校の了承を得ず、事前に次年度のホスト校を決定することや仮決定等を行いホスト校会議に参加することは禁止する
5. 全国フレンドシップ活動の方針は、決定したホスト校に一任する (第10回横浜国立大学提案)
6. この規約はホスト校から次年度のホスト校へ引き継ぐこととする。この規約が不要あるいは不条理であるとの意見が出た場合は、ホスト校会議において過半数の同意を得ることを条件とし改廃することができる

第14回「全国フレンドシップ活動」in信州

ホスト校会議 信州大学 2014年3月5日 採択

各大学・協力団体等への依頼状

信州大学が〈第14回「全国フレンドシップ活動」in信州〉のホスト校に決定後、開催実現のために、学生を派遣してくださる大学やご協力をお願いする団体等に各種の依頼をしました。ここにはその依頼時の文書をいくつか時系列で示します。今後のご参考になればと思います。

1. 学生の派遣を要請した大学等への依頼状

発番〇〇

平成25年11月18日

〇〇〇〇大学 学長 様

信州大学教育学部長

平野 吉直

第14回「全国フレンドシップ活動」in信州への学生の派遣（依頼）

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、「全国フレンドシップ活動」に温かいご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

さてこの度、第14回「全フレ」を本学部がホスト校となって開催することになりました。青木村、麻績村、長野市湯谷の3地域の子どもたち、地域住民とともに斬新な発想による体験学習を下記の通り実施致します。

つきましては、貴大学の学生さん10名を派遣していただきたくお願い申し上げます。

なお、フレンドシップ事業ご担当の〇〇〇〇先生にも、この派遣申請を送付してありますことを申し添えます。

記

1. 日 程： 平成26年（2014）3月5日（水）～9日（日）

2. 宿泊場所

3月5日（水）長野市青少年錬成センター

3月6日（木）長野市青少年錬成センター

3月7日（金）青木村文化会館、麻績村第二公民館、長野市青少年錬成センター

3月8日（土）長野市青少年錬成センター

3. 学生参加費： 2万円（宿泊費・食費・保険料・その他）

4. 子ども、地域住民との活動場所

青木村文化会館、麻績村第二公民館、長野市湯谷・檀田地区センター

5. 参加人数

学生98名 子ども3地区合計で約100名 地域住民約50名

6. 参加大学の学生人数

茨城大学(5)、関東学院大学(5)、岐阜聖徳学園大学(5)、熊本大学(5)、信州大学(28)、

上越教育大学(10)、中部大学(5)、鳴門教育大学(3)、広島大学(11)、福井大学(10)、

横浜国立大学(11)

(五十音順)

2. 学生派遣要請を依頼した宛先：大学・学部名、活動名・担当教員名

大学名	宛先等		
1. 関東学院大学	人間環境学部長	Happy smile	黒田篤志 先生
2. 福井大学	教育地域科学部長	探求ネットワーク	森 透 先生、遠藤貴広 先生
3. 茨城大学	教育学部長	子どもふれあい隊	越生 達 先生
4. 中部大学	現代教育学部長	あつまれわんぱく隊	采摺真澄 先生
5. 熊本大学	教育学部長	メイクフレンズ	中山玄三 先生
6. 鳴門教育大学	学長 総合学習研究会	ふれあいアクティビティ	近森憲助 先生
7. 広島大学	教育学部長	ゆかいな土曜日	児玉真樹子先生
8. 上越教育大学	学長	学びのひろば	釜田 聡 先生
9. 横浜国立大学	教育人間科学部長	がやっこ探検隊	佐桑あずさ 先生
		わくわくサタデー	小池研二 先生 坂本 智 先生
10. 岐阜聖徳学園大学	教育学部長	ぐんぐん隊	福田茂隆 先生
11. 信州大学	教育学部長	第20期「信大 YOU 遊未来」	土井 進 先生

3. 青木村村長・麻績村村長への協力依頼状

平成 25 年 12 月 12 日

〇〇村村長 〇〇〇〇 様

信州大学教育学部長
平野 吉直

〇〇村での第 14 回「全国フレンドシップ活動」in 信州の実施（協力依頼）

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、「全国フレンドシップ活動」に温かいご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

さてこの度、第 14 回「全フレ」を本学部がホスト校となって開催することになりました。青木村、麻績村、長野市湯谷の 3 地域の子どもたち、〇〇村村長様はじめ地域住民の皆様とともに、学生パワーの斬新な発想による子どもたちに勇気と希望を与える体験活動と、村の指導者の皆様と村の発展をめざす懇談会を下記の通り実施したいと思います。

つきましては、平成 26 年 3 月 7 日（金）19:00～21:00 に〇〇〇〇館において〇〇村村長様のご講演と懇談会の開催について、格段のご理解とご協力を賜わりたくお願い申し上げます。

記

1. 日 程： 平成 26 年（2014）3 月 5 日（水）～9 日（日）

2. 宿泊場所

3 月 5 日（水）長野市青少年錬成センター

3 月 6 日（木）長野市青少年錬成センター

3 月 7 日（金）青木村文化会館、麻績村第二公民館、長野市青少年錬成センター

3 月 8 日（土）長野市青少年錬成センター

3. 活動内容

3 月 7 日（金）19:00～21:00 「〇〇村村長様のご講演」「村の発展をめざす懇談会」

① 青木村文化会館で全国 11 大学 36 名の学生と村長はじめ村の指導者の皆様との懇談会

② 麻績村第二公民館で全国 11 大学 36 名の学生と村長はじめ村の指導者の皆様との懇談会

③ 教育学部で全国 11 大学 26 名の学生と湯谷小子どもランドの保護者の皆様との懇談会

3月8日(土) 9:00~14:00 学生が協働開発した体験活動プログラムの実践

- ① 青木村文化会館、青木村体育館で子ども50名との体験活動
- ② 麻績村第二公民館、麻績村体育館で子ども50名との体験活動
- ③ 湯谷小学校体育館、檀田地区センターで子ども50名との体験活動

4. 学生参加費 2万円(宿泊費・食費・保険料・その他)

5. 参加人数

学生100名 子ども3地区合計で約150名 村長、教育長はじめ地域住民約50名

6. 参加大学名と参加学生数 11大学98名

茨城大学(5)、関東学院大学(4)、岐阜聖徳学園大学(8)、熊本大学(4)、上越教育大学(7)、中部大学(7)、鳴門教育大学(6)、広島大学(12)、福井大学(12)、横浜国立大学(12)、信州大学(23)

4. 湯谷子どもランド会長への協力依頼状

湯谷子どもランド会長倉地昭重様への協力依頼状は、前掲の両村長宛依頼状と同内容ですが、「3. 活動内容」の部分のみ異なります。その部分のみ掲載します。

3. 活動内容

3月7日(金) 19:00~21:00 懇談会「地域の活性化のためのプロジェクト開発」

- ① 教育学部で全国11大学26名の学生と湯谷子どもランドの保護者との懇談会
- ② 麻績村第二公民館で全国11大学36名の学生と村長はじめ村の指導者との懇談会
- ③ 青木村文化会館で全国11大学36名の学生と村長はじめ村の指導者との懇談会

3月8日(土) 9:00~14:00 学生が協働開発した体験活動プログラムの実践

- ① 湯谷小学校体育館、檀田地区センターで子ども50名との体験活動
- ② 麻績村第二公民館、麻績村体育館で子ども50名との体験活動
- ③ 青木村文化会館、青木村体育館で子ども50名との体験活動

5. 信州大学教育学部全教職員へのお知らせ

平成26年2月24日

教育学部全教職員の皆様

正副実行委員長：小塚尚士(保体3)北野雄大(社会3)
青木村責任者：羽田鋭(実践4)那須絢太郎(数学3)
麻績村責任者：成瀬貴心(保体4)渡邊玲菜(音楽4)
湯谷小責任者：月岡優介(社会4)林志桜里(生活4)
指導教員：土井 進(教育科学講座教授)
協力教員：安達仁美(教育科学講座助教)

平素、学生の「YOU遊」実践にご理解とご協力を賜わり、心から御礼申し上げます。さて、下記の通り本学部がホスト校となって、第14回「全国フレンドシップ活動」in信州を開催することになりました。期間中、何かとお騒がせしますが、どうぞ、よろしく申し上げます。

第14回「全国フレンドシップ活動」in信州のお知らせ

1. 日 程：平成26年(2014)3月5日(水)~9日(日)
2. 研修会場：信州大学教育学部
3. 宿泊場所
3月5日(水)長野市青少年錬成センター

3月6日(木) 長野市青少年錬成センター

3月7日(金) 青木村文化会館、麻績村第二公民館、長野市青少年錬成センター

3月8日(土) 長野市青少年錬成センター

4. 学生参加費 2万円(宿泊費・食費・保険料・その他)

5. 参加大学名と参加学生数 11大学 100名

茨城大学(5)、関東学院大学(4)、岐阜聖徳学園大学(8)、熊本大学(4)、上越教育大学(7)、中部大学(7)、鳴門教育大学(6)、広島大学(12)、福井大学(12)、横浜国立大学(12)、信州大学(23)

6. 子ども・地域住民の参加数 子どもは3地区合計で約150名 住民は村長、教育長、村会議員、校長はじめ地域住民約100名

7. 本事業の特色: 文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC)」として実施されている「信州アカデミア」の一環として実施される。

3月7日(金) 20:00~21:00 青木村: 北村政夫村長の講演と懇談会 : 青木村文化会館
講演題目: 「青木村の行政課題及び少子化対策」

3月7日(金) 18:00~20:00 麻績村: 高野忠房村長の講演と懇談会 : 麻績村第二公民館
講演題目: 「麻績村の地域の課題」

3月8日(土) 15:00~16:00 長野市湯谷地区: 近藤和巳会長の講演と懇談会
: 長野市立檀田地区センター
講演題目: 「湯谷子どもランド12年の実践と課題」

5. 信州大学教育学部長・副学部長へのお願い

平成26年3月5日

平野学部長先生

永松副学部長先生

第14回「全国フレンドシップ活動」in 信州における「ご挨拶」のお願い

1. 日時: 平成26年(2014)3月7日(金)

2. 研修会場:

平野吉直 教育学部長 青木村文化会館 20:00~21:00

北村政夫村長のミニ講演「青木村の行政課題及び少子化対策」と懇談

信州大学地域戦略センター 上席研究員 田村守康氏

沓掛英明 青木村教育委員会 教育長

永松副学部長 麻績村第二公民館

高野忠房村長の講演「麻績村の地域の課題」と懇談

信州大学地域戦略センター 研究員 白神晃子氏

岐阜聖徳学園大学教授 木林直樹氏

市川祥介 教育委員長

3. 参加大学名と参加学生数 11大学 100名 (省略、前掲参照)

4. 地域住民の参加数 青木村、麻績村の村長、教育委員長、教育長、村会議員、校長はじめ地域住民約50名

5. 本事業の特色:

① 文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC)」として実施されている「信州アカ

デミア」の一環として実施されており、アルピコバス借り上げ代、25万2千円の補助を受けていること。

② 青木村からはマイクロバス代4万円で学生を搬送していただいていること。

③ 麻績村からはマイクロバス代全額を支出して学生を搬送していただいていること。

6. 成果報告書

従来のフレンドシップ事業は、現文部科学省の事業として、学生が直接子どもとふれあうことを目的としたものであります。今回の文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学COC）」は、大学が地域社会と深く結びつくことを求めている事業であり、フレンドシップ事業とは格段に広域な取組といえます。

平成25年度 地域志向教育研究支援事業「教育補助」

成果報告書

(平成26年4月24日)

申請事業名： 信大生が地域の子どもと交流することによって村を活性化するプロジェクトの開発

応募 枠： 地域人材やフィールドの活用・連携を行う教育事業

地域に対する知の発信や交流事業

地域の人材育成を行う事業

その他

申請者（代表者）

氏名：土井 進 所属部局：教育学部 職名：教授

支援金額：252,000円

<採択事業における地域連携の意義>

本事業は、教育学部の学生が、自主的・主体的に青木村、麻績村、そして長野市湯谷地区と連携することによって、村の子どもたちを活性化するプロジェクトを開発したところに大きな意義がある。

<地域との連携方法における工夫>

教育学部の学生が青木村と麻績村の子どもたちと交流するようになって9年目になる。また、湯谷地区の子どもたちと関わるようになって12年目になる。

本事業において工夫したことは、これまでに蓄積してきた地域連携の手法を基盤として、新たに3地域に全国11大学から100名の学生を招待して、ユニークな体験活動を実践したことにある。

また、従来の地域連携は教育委員会との協働による子どもの育成が主目的であった。今回は大学COCの趣旨をより鮮明にするために、青木村の北村政夫村長、麻績村の高野忠房村長、そして長野市湯谷小子どもランド保護者代表、近藤和巳会長に「地域課題と人材育成」について講演していただいた。

これによって全国の学生は、子どもたちが生活している地域社会の実態について、深い感動をもって理解することができた。

<地域連携による大学教育への効果>

全国11大学100名の学生が切磋琢磨した本事業によって、本学の学生は他大学の学生の良さに学ぶと共に、地域社会と密接に連携している信州大学の良さを改めて認識することができた。

お礼のことば（「あとがき」に代えて）

何度も胸がいっぱいになりました

今回のこの「全国フレンドシップ活動」を信州大学で行うことによって、全国のたくさんの仲間たちと出会い、多くの学びを得ることができました。

「全国フレンドシップ活動」が無事に開催することができたのは、土井進先生をはじめ、青木村の地域の方々、麻績村の地域の方々、湯谷子どもランドの保護者の方々、長野市錬成センターの方々から、温かいご支援とご協力をいただくことができたからだと感じています。

私たちの子どもに対する想いが強い分、いろいろな方に無理を言ってしまった部分もたくさんあったと思います。そのような時でも皆様は、私たちを優しく見守り、背中を押してくださいました。私は心から嬉しく、何度も胸がいっぱいになったのを覚えています。人と人とのつながり、そして人の温かみを再確認できた5日間でした。

「全国フレンドシップ活動」に関わっていただいたすべての方々に、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。この「活動」でいただき心に深く受け取った感謝の気持ちや想いを、社会人として、教師として、各々が活躍する場で少しずつお返ししてゆきたいと思っています。

たくさんのご支援とご協力、本当にありがとうございました。

第14回「全国フレンドシップ活動」in 信州

実行委員長 小塚尚士

☆

学生諸君の熱意と献身に敬意を表します

平成24年(2012)年12月20日、成瀬貴心・小塚尚士・北野雄大・渡邊玲菜ら7名の「全フレ」参加者の学生たちが、W館の5階に集まった。当時、N館は耐震改修工事のため私のN305の研究室はW館5階の廊下に移転し、N308の「YOU遊演習室」（総合生活科演習室）は、10区画に仕切られた舞踏室の入口の部屋に移転していたからである。

学生たちが集まった理由は、上越教育大学で開催される「第13回全フレ」の第1日目のホスト校会議において、第14回のホスト校として信州大学が立候補するかどうかを決めることであった。

その背景には、私が平成25年度末で定年退職するという事情があった。「やるならば今しかない、〈第14回〉は何としても信大で」という判断で一致した。そこで私は、信大がお引き受けするには、青木村、麻績村、長野市湯谷の理解と協力が得られなければ開催できないことを告げた。彼らは平素の繋がりをつけてにして熱心に駆けまわり、協力を取り付けた。

こうして迎えたホスト校会議。2大学が立候補し、プレゼンテーションと質疑があった後、11大学による投票が行われた。信大に過半数の票が入ったと興奮した電話連絡が入った。

それから1年間、多くの皆様の温かいご理解とご協力のおかげで、「第14回全フレ」が無事大成功裡に終わり福井大学へとバトンタッチすることができた。

ここに、奮闘努力された学生諸君の熱意と献身に対し、心からの敬意を表し御礼申し上げます。ありがとうございました。

信州大学特任教授・淑徳大学人文学部教授

土井 進

第14回「全国フレンドシップ活動」in 信州 報告書
信州大学教育学部「全フレ」編集委員会

編集長・那須洵太郎 (理数科学教育専攻4年)

編集委員・小塚 尚士 (保健体育教育専攻4年) ◎

編集委員・北野 雄大 (社会科学教育専攻4年) ○

顧問・土井 進 (信州大学教育学部教授)

◎実行委員長 ○副実行委員長

平成25年度地域志向教育研究支援事業「教育補助」報告書

第14回「全国フレンドシップ活動」in 信州 報告書

2014 (平成26) 年10月27日印刷 ©

2014 (平成26) 年10月29日発行

編集 信州大学教育学部「全フレ」編集委員会

発行人 土井 進

E-Mail:doisum@shinshu-u.ac.jp

発行 信州大学教育学部「全フレ」編集委員会

〒380-8544 長野市西長野6-10

TEL 026-238-4260 FAX 026-238-4260

制作 オフィス春日

E-Mail:xmbxp210@ybb.ne.jp

